

等萬端差引進退可仕旨被仰出候間、是又被得其意、右之差圖に任せ候様可被致候、委細之儀は、掛之面々より可申談候旨相達候條、得其意可申談候、

二月寛政十六日

蝦夷地御用被仰付候面々江御書付

今度異國境御取締被仰付候に付、東奥蝦夷地之内島々迄、當分御用地に相成、其方江右御用被仰付候、是迄松前若狹守、右之土地より年々收納之分、從公儀若狹守江相渡候様被成下候に付、右場所に而、萬端其方共さし圖に任せ候様、若狹守江申渡候間、被得其意、猶土地之様子も追々申談候上、見分有之、蝦夷人教育之儀を始、風俗相替候儀、并交易之趣法迄存寄に任せ、一體開國之御趣意を合、服從致候儀第一に可被心得候、右御用之儀は、深き御趣意に而被仰出候儀有之、御國境之事にも候得者、其心得を以、銘々粉骨を盡、此度之御趣意不違様、進退差引精勤可被致候、尤不得止事儀は、不及、窺取計可被申候、御入用向之儀は、不少分外も可有之候之間、追々可相伺候、

松平信濃守 石川左近將監 羽太庄左衛門 大河内善兵衛 三橋藤右衛門

右正月七日被仰出候

松平伊豆守殿御書取 ゑぞ地御用の趣意被仰渡候寫秘書

今度蝦夷地御用之御趣意は、彼島未開地に有之、夷人共衣食住の三ツも不相整、人倫之道も辨ざる不便の次第に付、此度御役人被遣、御徳化を及し、教育をたれ、漸々日本之風俗に歸し、厚く服從いたし、萬々一外國より懷け候事など有之候共、心底動かざる様存込せ候儀、御趣意之第一に候得共、玄かれども只今俄に事を弛め、或は猥に物を與へ、急速に服從を取候様に而者、往際限も無之、却而永續もいたし間敷候間、先當時之處は土地に仕馴し、交易の業を以、夷人ども潤ひ候様可致候、此交易之儀、是迄之通町人ども計に而者、彼是不正之趣も有之やと相聞え